

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
人と人との交わり、つながりの中で、「人間性豊かな心」「たくましく生きる力」「学び続ける姿勢」を持つ子 ～明るく元気・自ら学ぶ・仲良く助け合う～

堺市立庭代台中学校
校長 大橋 幸一

令和7年度 重点目標
本校教育目標を「人と人との交わり、つながりの中で『豊かな心』と『生きる力』を育てる」とし、これを実現するための重点目標を、「自分の良さに気づき、他者を認め、人とつながり協働する子どもの育成」「子どもが学習するための最適な方法や形態を考えた授業づくり」「ICTを活用した授業の推進と情報活用能力の育成」「信頼される学校、信頼される教員をめざす」と設定した。

確かな学びの現状
○静謐な環境での授業が実施され、生徒も意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる。
○堺市学習・生活状況調査(令和6年度)の結果から、「授業中は学習に集中しているか」の肯定的回答は、現3年生が約94%、現2年生が約87%であった。また「自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに対する肯定的回答は、現3年生が約62%、現2年生が約55%となり過半数を超えている。これらのことから、学習意欲の高さが伺われる。

豊かな心・健やかな体の現状
○堺市学習・生活状況調査(令和6年度)の結果から、「将来の夢や目標を持っているか」に対しての肯定的回答は、現3年生が約65%、現2年生が約69%であった。「相手の気持ちやその場の状況を考え、自分の思いをもって行動していますか」の肯定的回答は、現3年生が約92%、現2年生が約85%であった。
○堺市学習・生活状況調査(令和6年度)の結果から、「朝ごはんを毎日、食べていますか」に対する肯定的回答は、現3年生が約94%、現2年生が約90%であった。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	授業改善	○子どもは生まれながらにして有能な学び手であるという「子ども感」を大事にした授業を行う。 ○子どもが主体的に学ぶ姿を捉え、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を図る。	●★子どもが自ら学びを進め、他者との協働的な学びを展開していく。	子どもの学びに対する充実度と達成度。	学習状況調査等	10月年度末	○	個別最適な学び等の充実を目的に、日々、臨機応変に教育活動を実施している。	○	「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の肯定回答91.3%で府平均を上回る。「ICT機器を使って学校の発表スライドを作成できますか」は68.5%と、改善が必要と考える。	○	子ども同士が考えを伝え合い、協力して学ぶ姿が見られる点は評価できる。読書習慣をさらに定着させ、学びを深めてほしい。また、ICT活用については今後の伸びに期待したい。
			●★ICTを効果的に活用する等、子どもの自尊心が醸成する授業を展開していく。	子どもが学習成果をどのようにして表現しているか。	学習状況調査等	10月年度末	△					
	授業研究の充実	○子どもが自己調整しながら学習を進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努める。 ○現状の課題解決のための研修を積極的に実施し、授業力向上をめざす。	●★研究授業日を設定し、授業づくりと信頼ある評価について研究する。 ●校外で実施の教科研究研修等に参加すること等により積極的な研究に努める。 ★堺市学力学習状況調査や学校アンケートの各種調査結果を活用し、検証分析を行い、授業改善につなげる。	公開授業等の実績・成果	実施状況 公開授業 校内研修	10月年度末	○	校内研修が予定通りに進んでおり、個々に校外の研修及び研鑽に努めている。	○	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることはできていますか」肯定回答78%、「授業で学んだことを、次の授業や実生活に結び付けて活かすことができますか」について80.7%と全国・府の平均を上回る。さらに主体性を伸ばす授業改善をめざす。	○	学習を振り返り、次につなげようとする姿勢が育ってきていると感じる。先生との距離感や相談しやすい雰囲気づくりを大切に、子どもが主体的に学べる環境をさらに充実させてほしい。
豊かな心・健やかな体	○人権尊重の精神に立ち、望ましい人間関係の形成し、自他の尊重や実践力を養う。 ○人権に関する知的理解と人権感覚の育成する。 ○子どもの自尊心を醸成する。	●★人権尊重の精神に立ち、子どもたちの望ましい人間関係の形成と自他尊重を養う道徳教育の実践する。 ★オープンスクール期間に、授業公開し、幅広く意見を徴収し研究を深める。	子ども個人や集団としての成長やその過程。	アンケート 学習状況調査等	年度末	○	公開授業の実施等、年間計画に基づき、予定通りに進んでいる。		○		「いじめはどんな理由があってもいけない」の生徒の肯定回答は100%の学年もあるが、99%の学年もある。これは100%にならないといけないと考えている。いじめは絶対に許されるものではないという意識のもと、子どもを支援していきたい。	
健やかな体の育成	○自尊感情の高揚と個性の伸長をめざす。 ○命を守り、安全で安心した活動を可能とする環境づくり。 ○計画的で組織的に、食育を推進する。	●★体育活動の活性化や、スポーツ活動に親しむ機会を充実させること等から、運動習慣を育む。 ●★栄養教諭をリーダーとして、中学校区での食育に積極的に取り組む。また、地域や家庭と連携して子ども食への意識向上をめざす。	体育・スポーツへの取組姿勢や体力テスト等の結果。	体力テスト等 学習状況調査等	年度末	○		栄養教諭を中心に小中一貫した食育に取り組むなど、概ね計画通りに進んでいる。	○	「自分には良いところがある」について、1年生83.8%・2年生78.8%・3年生92.1%。学年によっては差はあるが自尊感情が高揚する支援を継続したい。また給食が開始し、給食を生きた教材として活用し、栄養教諭を中心に小中一貫した食育を積極的に推進していく。		○
地域協働	○家庭や地域から信頼される学校でなければならない。	●★学校ホームページ、学校だよりを活用し、教育活動の情報を発信する。 ●地域とともに歩む学校づくりをめざす。大人からの積極的に「あいさつ」を実践する。	スピード感をもった情報発信	アンケート	年度末	△	12月に学校についてのアンケートを実施する。学校からの情報は、今後も継続して発信する。		△		「学校は学校HP等で学校での活動の様子等をよく伝えている」の保護者肯定回答は90%。「保護者や地域の方が学校に来る機会を設け開かれた学校にしている」は98%であった。今後も積極的な情報発信に努めていきたい。	○

校長より(年度末)
「人と人との交わり、つながり」を基盤に、子どもを有能な学び手として捉えた授業づくりと、主体的・協働的な学びの充実を進めてきた。その結果、友達の考えを尊重し協力して課題解決に取り組む姿や、学習を振り返り次につなげようとする力が育ち、全国・府平均を上回る成果が多く見られた。一方で、ICTを活用した表現力や自尊感情には課題が残る。今後は研修の充実を図るとともに、人権尊重を基盤に、家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを一層推進していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
子どもたちが「いじめはどのような理由があっても許されない」という認識を十分にもち、人の役に立ちたいという前向きな気持ちを育んでいる点が高く評価された。また、教職員との距離感が適切で、困ったときに相談しやすい雰囲気学校全体にあることは、安心して学校生活を送る上で重要であるとの意見があった。一方で、家庭と連携した読書習慣の定着や、給食を残さず食べる意識の向上については、今後も継続した取組が必要である。加えて、防災教育についても、命を守る力を育てる観点から、より一層積極的に推進していくことが期待されている。